

# 副検事の仕事

副検事の仕事や任官の方法などを御案内します。

## 副検事の仕事と人員

◆副検事は、主に、窃盗、横領、詐欺、傷害、過失運転致死（交通事故）等の市民生活に密接に関わる事件を扱います。

◆現在、全国で約800人の副検事が活躍しています。

## 副検事になるには

◆検察事務官として採用された後、受験資格を得て、毎年1回実施される「副検事選考」（副検事試験）に合格すれば、副検事になることができます。

◆副検事には、検察事務官から任官することが多いですが、検察事務官以外の公務員も、選考の受験・任官は可能です。  
矯正官署、保護官署、裁判所、自衛隊など様々な経歴を持つ方が、副検事に任官しています。

※副検事に任官後、受験資格を得て、「検察官特別考試」に合格すれば、検事になることもできます。

## 副検事選考試験

◆試験方法  
第1次選考 筆記試験  
第2次選考 口述試験

◆試験科目  
筆記及び口述ともに、  
・憲法  
・民法  
・刑法  
・刑事訴訟法  
・検察庁法  
の5科目です。



## 現役副検事の声をお届けします

### ① A副検事 男性（H28任官）

私は、検察事務官として働き始めた当初は、副検事を目指していませんでした。しかし、副検事と共に捜査や公判を経験する中で、被害者や遺族と共に泣き、犯罪をした人を厳しく追及しながらも更生を願う人間味あふれる仕事に魅力を感じ、検察事務官を12年務めた後に任官しました。公益の代表者としての責務は重く、プレッシャーもありますが、「人間力」が試される仕事であり、とてもやりがいがあります！

### ② B副検事 男性（H31任官）

平成31年4月、刑務官から副検事に任官しました。副検事になるための試験勉強が終わり、気持ちが楽になったと思っていましたが、任官してからが緊張の連続でした。これまでの仕事は、1つのポストで2年程度勤務し、また別のポストで勤務していくもので、行政機関の仕事を幅広くやっていくというものでしたが、副検事の仕事は、事件を処理する専門的なものです。異動はありますが仕事内容に変わりありません。専門的な仕事であるため、身に付けなければならない知識や技術は限りありません。ですので、副検事の仕事は、向上心を持ち続けながら仕事人生を全うできるものではないでしょうか。

### ③ C副検事 女性（H30任官）

私は、広島地検で19年間検察事務官として働き、39歳の時に副検事に任官しました。現在は、岡山地検で窃盗や詐欺、傷害、わいせつ、交通など、様々な事件の捜査・公判を担当しています。通常の捜査・公判だけでなく、贈収賄などの特殊な事件に検察官チームの一員として携わることもあるなど、毎日が刺激に満ちた、やりがいのある仕事です！

### ④ D副検事 女性（H30任官）

私は、民間会社員から34歳で検察事務官になり、42歳で副検事に任官しました。初任地は佐賀地検で副検事2年目のときに縁があって結婚しました。夫は仕事に理解があり、のびのびと仕事に没頭させてもらっています。困難な事件もありますが、事実を掘り下げて諦めずに真実を追及していく捜査や、法廷で堂々と立証していく公判の仕事は、苦しい分、達成感は倍増です！